

回胴式遊技機製造業者連絡会(佐野慎一会長)は2016年6月16日、オーラム(東京都台東区)において、回胴式遊技機の新たな自主的な措置(5.9号機基準)に関するプレス説明会を開催。

プレス説明会には、佐野会長、金沢全求副会長、兼次民喜副理事長(日電協)、岩堀和男技術副委員長(日電協)、山澤求常務(日工組)が出席した。

中西馨技術部長が司会をつとめ、「5.9号機基準の概要」を説明した。

この5.9号機は、2017年10月1日以降、この5.9号機のみ新台設置必須となる。5.9号機は「役比モニタ」が必須搭載され、主基板上にシールなどで隠れない位置に4ケタ7セグモニタが設置。

そのモニタには(1)累計・有利区間比率 (2)6000ゲーム・連役比 (3)6000ゲーム役比 (4)累計・役比 (5)累計・役比、が情報表示される。

また5.9号機の指示機能では、すべて主基板で行う。

それぞれ「通常区間」(指示禁止)、「有利区間」(指示可能)の管理について説明した(資料参照)。

「役比モニタ」の目的は、「遊技機の射幸性の度合いとなる有利区間比率、連続役物比率(連続比)、役物比率(役比)について、遊技機自身で集計し、モニタ表示する機能を搭載することで、市場において、遊技機が不正改造されていないかを容易に確認できるようにする」。

これについて、誰が?この役比モニタを見ることが出来るかの質問に対して、「遊技機単体で表示されているもの(外部出力端子なし)。

セキュリティの面で行政と協議した中で、例えば機構の立入検査、あるいは所轄の警察官が不正機かどうか確認する事ができるものがあればいいねというヒントからできた一つが、役比モニタ。どうやって運用するか等はまだ何も決まっていない。

設置店舗において、営業データがおかしい?という事で、この役比モニタをチェックする事も可能だと思う」と標準装備の理由としていた。

金沢副会長は、5.9号機への移行について、「低射幸性への移行という事で、連携して取り組んでいます。来年10月から5.9号機ということで一緒に同一步調で行きたい」と述べた。

説明

- ① 役比モニタを考案したのが山佐株式会社 代表取締役 佐野 慎一で警察の許認可もとっており、他のメーカーが使用しても特許料は、ほとんど発生しない方向性で動いている。
- ② 封入式パチンコ(ECO遊技機)は、武本の考案から始まり、SANKYOを騙し傘下に

入れ、特許及び遊技機の筐体もSANKYOの独占となるように、提案をして、資金提供をしてもらう。ところが肝心の警察への許認可が未だに取得されていない状況である。

③ SANKYOの毒島会長の焦り

これに焦った毒島会長は、佐野社長に探偵を雇い尾行させ、写真を撮り、ファクタと知り合いの武本氏が写真を持ち込み掲載させたのである。

佐野社長が特許を無料提供料する事が気に食わないらしい、毒島会長は、封入式パチンコ(ECO遊技機)の特許料で儲けようとしているが、出来なくなる可能性があるからだ。

④ 代表取締役株式会社ゲームカード・ジョイコホールディングス及び子会社は、希望退職者 86 名を出した。

特別損失の内容

平成 29 年 3 月期連結決算において、今回の希望退職者の募集に伴い発生する引き当て費用 8 億 5,000 万円(特別損失)を計上する見込みとなりました。また、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、収益性が低下した固定資産について減損処理を行い、4 億 4,000 万円(特別損失)を計上することといたしました。

そもそも 85 億円の開発費はどのようになっているのだろうか、そして、株式会社ゲームカード・ジョイコホールディングス代表取締役である石橋は会社の業績が悪いのに社員だけ辞めさせて、自分は辞任しないのか不思議である。

詐欺的行為をしてジュニアゴルファー育成財団の理事長及び監事などやっていいものだろうか、そして、株式会社ゲームカード・ジョイコホールディングス代表取締役である石橋は会社の業績が悪いのに辞任しないのか不思議である。

⑤ 公益社団法人ジュニアゴルファー育成財団

理事長 石橋 保彦 株式会社平和 相談役

監事 武本 孝俊 株式会社コンパス

詐欺的行為をしてジュニアゴルファー育成財団の理事長及び監事などやっていいものだろうか、